



窪川中学校

子どもたちの選択肢が広がる
「地域移行」のカタチ。

部活動の新しいカタチ

学校から地域へ、広がる可能性

特集



部員の減少、教員の負担増…。中学校の部活動が直面するさまざまな課題。「地域移行」という新たな動きは、部活動外部指導員の登用や地域クラブ活動、他校との連合活動など、学校の枠を超え、地域で子どもたちをサポートする新しいカタチを生みだしています。

この変化は、子どもたちにどんな可能性をもたらしているのでしょうか。

変わり始めた部活動

今から約30年前、窪川中学校の放課後のグラウンドには、野球部、ソフトボール部、サッカー部に陸上部、複数の運動部が仲間と共に汗を流す姿がありました。そして、音楽室から聞こえる吹奏楽部のメロディ。

しかし今、中学校の部活動の事情が大きく変わろうとしています。少子化が進む中で部員数は減少し、各学校単独での大会出場が難しい部活動も増え、連合チームや休部といった状況もあります。また教員の働き方改革という時代の流れもあり、学校や教員だけでは部活動の維持が困難な状況になっています。

令和4年12月、スポーツ庁と文化庁は「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定。令和5年度より公立中学校においては、学校の教員が担ってきた部活動の指導を、地域の団体や個人が指導できる体制へと、地域へ「移行」させる取り組みが全国的に始まっています。

地域に根差した新たな部活動のカタチ

四万十町でも令和5年度から「四万十町部活動推進委員会」で、学校関係者やスポーツクラブなどが集まり、部活動の地域連携、地域移行を含めた新たな運営方法を協議しています。

地域の実情や競技の専門性も異なるため、全ての部活動をすぐに地域へ移行できるわけではありません。子どもたちの選択肢を狭めてしまわないよう、学校と地域が連携し、地域の人材や資源を有効に活用した新たな部活動の運営体制が、それぞれの学校で見え始めています。

地域移行の先駆け「水泳部」

町内3つの中学校で最も生徒数の多い窪川中学校には、12の部活動があります。その中でも、卓球部と剣道部では、教育委員会に登録された「部活動外部指導員」が、放課後や休日に子どもたちの部活指導を行っています。

また町内で唯一、部活動が地域へ移行されたのが「窪川中学校水泳部」です。昨年度、B&G海洋センターを運営する「くぼかわスポーツクラブ」へ、部の運営の全てが移行され、地域クラブとして日本中学校体育連盟(中体連)に申請し活動しています。水泳部だった生徒は、同クラブに登録している「窪川スイミングクラブ」の所属へ。練習では窪川B&G海洋センターの屋内温水プールを利用し、スイミングクラブのプロ指導者の下、小学生から高校生までが一貫した専門的指導を受けられる環境となっています。

水泳を安心して続けられる環境ができた

中学校、高校へ進学する際、その学校に水泳部がなく、競技をやめてしまう生徒がいます。地域クラブになったことで、ずっと水泳が続けられる環境が整ったことがうれしいです。地域クラブの場合、もし他に陸上をしたい子なら陸上部に入部することも可能なんです。子どもたちにとっては、選択肢が増えて素晴らしいことなんですけど、指導者にとっては、一つの競技に専念してもらいたいという思いもあり複雑ですけどね。



くぼかわスポーツクラブ
ひろこ 竹内 浩子 さん

経験者に練習を見てもらえてありがたい

小学2年生の時に剣道を始め、ずっと地域の指導者に教わってきました。中学校に進学する時も、剣道部にはちゃんと指導者がいることを事前に聞いていたので不安はありませんでした。逆に稽古の厳しさへの不安の方があったり…。でも地域の剣道経験者の方に、練習を見てもらえる環境はありがたいです。

基本稽古の時、自分の姿勢や打ち方を見て、一本取れる打ち方などを教えてくれるのでありがたいです。



剣道部 大塚 隼 さん

「新たなカタチ」を指導者と生徒はどう見る!?

